

Shake Hands



常滑国際交流協会

第85号 2011年8月10日発行

〒479-0837 常滑市新開町5-58 電話：0569-34-4797 FAX:0569-34-4930

E-メール: tia@japan-net.ne.jp ホームページ: http://www.japan-net.ne.jp/~tia/

とこなめ 2011・夏・今年も国際交流活動全開

TSIE 常滑市内児童生徒国際交流推進協議会 派遣事業の結団式が行われました。

平成23年度のTSIE（常滑市内児童生徒国際交流推進協議会）の派遣事業 海外派遣団 結団式が7月1日に常滑市福祉会館にて行われました。

式典はTSIE会長（代理）挨拶から始まり、大野小学校、西浦北小学校、西浦南小学校、小鈴谷小学校の順に各派遣団の挨拶と紹介が行われました。

各学校は、各校共引率者2名と児童が派遣先で紹介するために練習を重ねたいろいろなカルチャーショウの演技と児童が一人づつ英語やスペイン語の自己紹介の挨拶をし意気込みと決意を披露しました。【写真】



各派遣団の紹介の後、派遣団全員が派遣誓約書にサインをし、来賓から激励の挨拶があり、TSIE担当校長からも挨拶が行われ結団式は滞りなく終了しました。

今年派遣事業を行う学校名と派遣児童数、派遣先国名、校名、派遣期間は次の通りです。

- 大野小学校、派遣児童数6名、派遣先メキシコ、プリンス頓校、派遣期間8月15日～8月29日
- 西浦北小学校、派遣児童数6名、派遣先マレーシア、セクション9校、派遣期間7月26日～8月10日
- 西浦南小学校、派遣児童数3名、派遣先コスタリカ、セントアンソニー校、派遣期間8月3日～8月23日
- 小鈴谷小学校、派遣児童数8名、派遣先メキシコ、アメジャリ校、派遣期間8月15日～8月29日

IWCAT2011

とこなめ国際やきものホームステイ

IWCAT2011の開会式が7月16日（土）に常滑市民俗資料館にて、常滑市から古川副市長、常滑商工会議所の杉江会頭、当協会の市原会長も来賓として出席し行われました。【写真】



27回目の今年の7カ国の9人の参加者は作陶の制作作業や研修旅行、地元常滑の陶芸家によるデモンストレーション、お茶会体験、生け花体験、3日間の薪窯の窯詰め作業などの日程を順調にこなして、8月9日には薪窯の火入れ



式が行われ海外からの参加者も二礼二拍一礼の儀式【写真】で作業の安全と作品焼成の成功を祈り、薪窯の窯焚きが始まりました。窯焚きの作業は12日早朝までの予定で行われ、お盆の間は休日となり16日に窯出しが行われます。

これらの参加者が制作した作品は、常滑焼まつり会場2階のIWCAT作品展にて展示されますので、ぜひご覧ください。

日本観光通訳協会の研修会が常滑で行われました。

通訳案内士の団体の日本観光通訳協会の研修会が6月23日に常滑で行われました。栃木、茨城、千葉、東京、神奈川県、静岡、兵庫、愛知の各地から12名の通訳案内士の方々が常滑に訪れ、INAXライブミュージアムとセントレアで研修会に参加しました。この研修会は当協会のボランティア通訳ガイド講習の布目講師からの依頼で当協会が常滑市商工観光課と協力して実施しました。



INAXライブミュージアムでは講義室にて辻館長から約1時間の講義をしていただきました。講義の内容は常滑焼の太古から現在までの歴史から、博物館の展示の紹介までにわたり、参加者は全員熱心にメモをとりながら聴講していました。館内のレストランでの昼食の後、辻館長と同館スタッフの磯村さんの案内で世界のタイル博物館と窯のある広場の展示を見学しました。

その後バスにて中部国際空港へ移動して、アクセスプラザからターミナルビルを約2時間かけて当協会の市原会長の案内で見学しました。参加者は全員が現役のプロの通訳案内士であるため、自分自身でお客様を案内することを想定して見学をされ、特にセントレアではお客様を出迎えたり、バスやタクシー、電車の利用や到着時の通関や両替などの具体的な質問が多くありました。

INAXライブミュージアムは産業観光の拠点であり、海外からの来訪者も多く期待され、各地の通訳案内士の方々に知って頂き非常に有意義な研修会でした。

21世紀東アジア青少年大交流計画
日中21世紀交流事業（中国高校生短期招聘）

「21世紀東アジア青少年大交流計画」とは、大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯を築くことを目的として日本政府が実施する事業で、毎年多数の青少年を日本へ招き、相互理解と友好関係促進の交流プログラムが行われています。このプログラムのハイライトは日本でのホームステイを通じた交流で、常滑国際交流協会では社団法人青年海外協力協会（JOCA）からの依頼を受けて2009年3月にマレーシアから13名の高校生を受入て2泊3日のホームステイをしました。

今年度は中国高校生の短期招聘事業として、9日間の滞在中に日本の高校生との交流、ホームステイ、日本の政治、歴史、文化、科学技術、教育等についての見学を通して日本についての理解を深め、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる相互信頼を醸成することを目的として実施されるとのことです。

愛知県には男女20名の高校生が9月15日から18日まで滞在中ですがその内の16日から17日までの1泊のホームステイ受入が知多西部の高校生家庭で行われます。高校では16日（金）に学校交流として授業参加や部活動体験等が予定されています。

写真は平成22年度の中国高校生訪日団第3陣アルバム



世界点描



ポーランド日記 肥田剛治

当協会会員の肥田剛治さんは2008年9月から1年間ポーランドのヴロツワフ（Wroclaw）の大学で日本語講師をされましたが、再び昨年9月から1年間、今回はポーランド東部のジェシュフ（Rzeszow）の大学で日本語の講師をされています。肥田さんのブログからの抜粋をポーランド日記として掲載します。

なお肥田さんは7月17日に無事帰国されました。

2011年07月11日 | ジェシュフだより

このところ、ポーランド、「ゴロンツォ」（暑いです）。



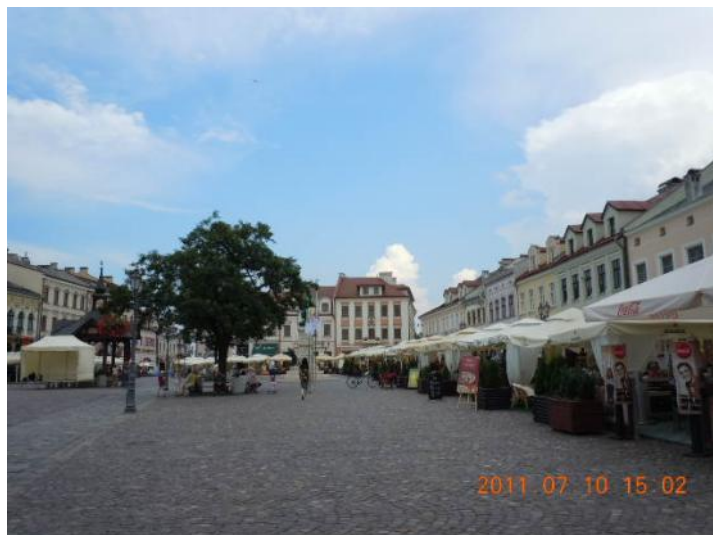
2011.07.09 15:36

川沿いのサイクリング・ロードは、去年来たときにはできていなかったが、今は完成。川沿いの草地では、日光浴をしている若者も。



2011.07.09 18:02

リネクでは、車の上から、花に水遣り作業。車の上で水をやっているのは、女性だった。



2011.07.10 15:02

リネクの周囲には、テントがズラリと並んでいる。一昨日は、初めてそのテント村？の一角で学生たちとビールで乾杯した。学生たちは、サヨナラ・パーティーとして集ってくれた。が、火曜日には、空港にも見送りに来てくれるらしい。

何人来てくれるのかわからないが・・・

うれしいのだが、わかれるのがつらくなってしまいかも。



2011.07.09 15:57

リネクへと続く、ジェシュフの街並み。



2011.07.10 14:42

ジェシュフの駅。

これが見納めだなあ・・・と思いつつ。今日は、大学の経済の先生と、最後の食事。

世界点描

3頁から続く
ポーランド日記 肥田剛治

ジェシュフで初めて、タコを食べた。
あの歯ごたえが、妙になつかしく、おいしく感じた。



ほとんど毎日乗り降りした、大学キャンパス前のバス停から、大学方向を見る。あの橋の向こうがキャンパス。



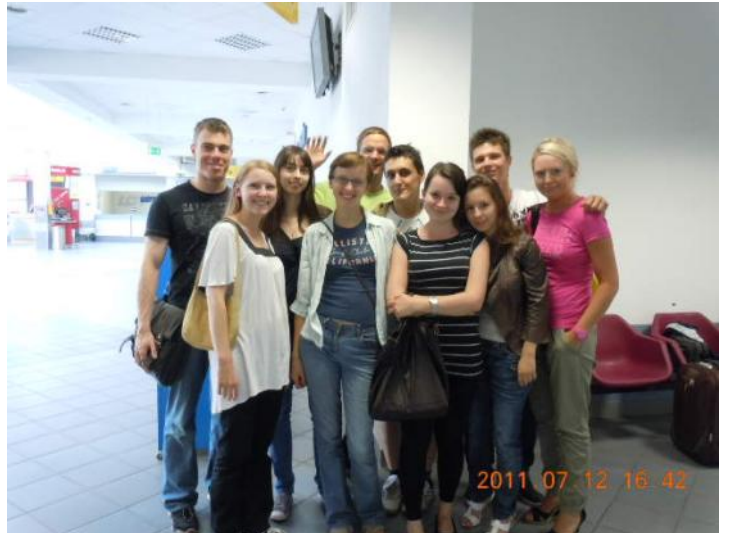
この歩道は、去年の秋にはできていなかったが、今はきれいに整備された。



キャンパス内からバス停を見る。

明日は、いよいよジェシュフにお別れ。
寂しさはずっしりだが、荷物の重さが気になるので、あれこれ選別して捨てていくことに・・・

2011年07月12日 | ジェシュフだより



空港には、11名の学生が来てくれた。
ここには、10名。1人は後で加わった。
これだけでも、じゅうぶんうれしかったのだが。
最後に、手作りのアルバムをプレゼントされた。
各写真に、みんなが、文章を書いてくれていた。
読めないところや、意味不明？箇所もあるが、そんなものを越えたメッセージがあふれていた。

出発ゲートを抜けて、ビルを出ると、大きな声が聞こえてきた。

「ヨシさ～ん！ ヨシさ～ん！」
飛行機へ向かって歩き出していた足を止めて、振り向くと、フェンスの向こうで学生たちが手を振っていた。



さっきもらったアルバムで、感激モードはすでに最高潮に達していたところへ・・・

もう一気に、限界を超えようとしていた。

飛行機に乗り込んでも、反対側の窓から、彼らの姿がまだよく見えた。

まったく逆側の窓側席に座ったのに、反対側の小さな窓の向こうに、彼らの姿だけがクローズアップされて見えた。
もうダメだった。

こみ上げてくるものが・・・